

事務事業マネージメントシート

作成日 平成29年 05月 10日

事務事業名	交通指導員配置事業				担当	市民生活部 安全安心課 交通安全係					
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8110					
施策名	8	交通安全の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業						
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ					
法令根拠	真岡市交通指導員設置規則					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 昭和45年度～)					
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1.総務管理費	8.交通安全対策費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度～ 年度)					
事業概要	交通指導員配置事業は、児童生徒の通学時の交通安全指導と交通事故防止を目的に昭和45年から実施されている。交通指導員は現在40名。市内小中学校の通学路で、危険性の高い場所や学校からの要望箇所に配置している。 指導日時：月～金、児童生徒の通学時間帯（登校時間のみ）										

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 28年度実績 市内40箇所での立哨指導。	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移									
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)			
	ア 交通指導員の人数	人	40	40	40	40	40			
	イ 指導日数	日	200	201	197	198	200			
	ウ									
	エ									
	オ									
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然资源等 市内小中学校の児童生徒。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移									
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)			
	ア 市内小中学校の児童・生徒数	人	7,057	6,997	6,991	6,980	6,858			
	イ									
	ウ									
	エ									
	オ									
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 児童・生徒の登校時の交通安全の確保。	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移									
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)			
	ア 立哨指導箇所での交通事故発生件数	件	0	0	0	0	0			
	イ									
	ウ									
	エ									
	オ									
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 児童・生徒が安心して通学できる。	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移									
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)			
	ア 安心して通学できる児童・生徒の割合	%	100	100	100	100	100			
	イ									
	ウ									
	エ									
	オ									
(2) 総事業費の推移	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)				
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	25,763	25,584	25,790	26,592	26,455		
		事業費計(A)	千円	25,763	25,584	25,790	26,592	26,455		
人 件 費	正規職員従事人數	人	2	2	2	2	2			
		延べ業務時間	時間	380	380	380	380	380		
		人件費計(B)	千円	1,544	1,604	1,592	1,578	1,578		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	27,307	27,188	27,382	28,170	28,033			
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか。	昭和40年代の交通事故の増加により、児童の通学時の安全確保のために、昭和45年に交通指導員を配置した。									
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	道路の新設・改良等により、新たな危険箇所(交差点、交通量の増加)が増えたことにより、指導箇所を増やして欲しいとの要望があり、指導員の増員を図ってきた。また、指導員の高齢化に伴い、平成15年度から70歳定年制が導入された。									
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?										

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 児童生徒の交通安全の確保は市の重要な施策である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 児童生徒の交通安全の確保は市の重要な施策であり、不可欠なものである。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 児童生徒の登校時の交通安全の確保であり適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 交通指導員を適切に配置し、児童生徒の交通安全の確保に努めている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 児童生徒の登校時の交通安全の確保ができなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 指導員報酬、人員配置とも適切である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し (<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？		

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客觀性と出来具合	<input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客觀性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客觀的と言える	(5) 改革・改善による期待成果
(2) 2次評価者としての評価結果	①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（從来通りで特に改革改善をしない）	
(4) その他2次評価会議で指摘された事項		